

平成 29 年度地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所調査研究評価委員会

平成 30 年 1 月 24 日（水）午後 1 時 30 分から 5 時 30 分 本館 4 階 講堂

○評価委員

氏名	所属	職名等
◎ 小林 和夫	堺市衛生研究所	所長
津村 ゆかり	近畿厚生局 麻薬取締部鑑定課	課長
朝野 和典	大阪大学 医学部	教授
福島 若葉	大阪市立大学 大学院医学研究科	教授
三宅 眞実	大阪府立大学 生命環境科学部獣医学科	教授
山崎 裕康	神戸学院大学 薬学部	教授

◎委員長

(五十音順)

○評価基準

評点	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
1	欠ける	劣る	乏しい	再考すべき
2	低い	やや劣る	十分でない	改善を要する
3	妥当である	標準的である	標準的である	標準的である
4	高い	優れている	標準以上	優れている
5	非常に高い	非常に優れている	優れた成果	非常に優れている

○評価結果

課題 1	微生物部	細菌課		
課題名	食品内で産生される細菌毒素に関する研究 ウエルシュ菌新型エンテロトキシン BEC (Binary Enterotoxin of Clostridium perfringens) に関する研究			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	3.8	4.3	3.9	4.1
委員 コメント	○他の地衛研でも測定可能な検査法を構築され、実際に近畿地区に配布されており、 実用面でも評価できる。 ○研究方向性として、菌の検出・病原性解析、動物およびヒト由来菌の解析など、衛 生行政に直接的に関与し、衛生行政や施策に科学的根拠を提供している。本課題や 成果は大安研の設置目的にも合致し、研究内容は発展的で将来性が豊かである。			

課題 2	微生物部	ウイルス課		
課題名	HIV およびその他の性感染症に関する研究 HIV 陽性例における B 型肝炎および梅毒の罹患状況の調査			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.2	3.3	3.8	3.6
委員 コメント	<p>○研究方向性として、行政機関（保健所）、大阪検査相談・啓発・支援センター、医療機関と連携し、研究成果を公衆衛生の向上に寄与する方向性は高く評価されます。</p> <p>○大阪における HIV と STD の関係を継続的に検証した研究。社会的な梅毒の増加やユニバーサルワクチンの開始などの変化が、今後このデータにどのような影響を与えるか興味深い。</p>			

課題 3	微生物部	微生物課		
課題名	ジビエ住肉胞子虫による寄生虫性食中毒のリスク評価 ジビエ住肉胞子虫の遺伝子解析による同定の試み			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	3.8	3.8	3.4	3.8
委員 コメント	<p>○狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉（ジビエ）の安全性は社会的に関心が高く、また、ジビエに起因する食中毒など健康被害に関する学術知見も乏しいため、良い課題設定と考える。</p> <p>○予備的研究ではありますが、今後の成果は、国民のみなさんにも大変興味あるところだと思います。ぜひ、シカの N 数を増やして検討を続けてください。</p>			

課題 4	衛生化学部	食品化学 1 課		
課題名	健康危害物質に関する衛生学的研究 高速液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析計を用いたブドウ球菌エンテロトキシン分析法の検討			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	3.7	3.5	3.5	3.6
委員 コメント	<p>○検出方法として抗原・抗体反応を用いるのは、コストがかかるので、LC/MSMS 分析法は低コストかつ定量まで可能である点、非常によい取り組みと思う。検査法としては期待できる。</p> <p>○市販検査キットが無い 6 種類を含む 11 種類のブドウ球菌エンテロトキシンの一斉分析をめざす研究である。市販キットの発売は市場性等の要因により必ずしも期待できるものではなく、LC/MS/MS で一斉分析が可能であれば有用性は高い。しかし現段階での検出下限は市販キットの 30~50 倍とのことであり、実用化に至るまでには相当高いハードルがあると考ええる。</p>			

課題 5	衛生化学部	食品化学 2 課		
課題名	食品中の化学物質に関する研究 HPLC および LC/MS/MS による食品中の人工甘味料の一斉分析法の検討			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.2	3.8	3.6	3.8
委員 コメント	<p>○レギュラトリーサイエンスとして重要な意義を持つ研究課題である。おおむね良好な成果を得ている一方で、解決すべき課題も多い。</p> <p>○超高甘味度甘味料とも呼ばれるアドバンテームが 2014 年に許可されるなど人工甘味料の状況が変化しており、多数の甘味料を一斉に分析できる方法は有用と思われる。</p>			

課題 6	衛生化学部	医薬品課		
課題名	危険ドラッグに関する研究 アダマンチル基を有するカルボキサミド型合成カンナビノイドの異性体分析			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.7	4.5	4.6	4.7
委員 コメント	<p>○危険ドラッグ対策において「指定薬物への迅速な指定」は重要な事項だが、本研究は異性体分析の視点から取り組み、成果は（厚生労働）大臣指定薬物（1 化合物）や大阪府知事指定薬物（2 化合物）として認定されている。分析化学による科学的根拠を行政施策に展開し、卓越した内容・業績と考える。</p> <p>○研究成果の英文誌上発表や外部競争的研究資金である科研費の獲得など、高い研究レベルと考える。また、危険ドラッグに関する国際的な動向や情報の収集・分析・更新など、適切に対応している。</p>			

課題 7	衛生化学部	生活環境課		
課題名	水道水の安全性に関する研究 ホルムアルデヒドを生成する浄水処理対応困難物質の処理性			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.3	3.6	4.2	4.0
委員 コメント	<p>○水道水の安全性に関し、ホルムアルデヒドを生成する浄水処理対応困難物質の観点から研究を推進し、行政需要の高い課題と考える。</p> <p>○厚生労働省が 2015 年に「浄水処理対応困難物質」14 物質を設定したが対策は確立されていないことから、ホルムアルデヒドを生成する 7 物質について処理法を検討したものである。オゾン処理が優れた浄水法であることを示し、また、オゾン濃度の調整法に関する知見を得る等、安全な水道水の供給に直結する成果を上げている。</p>			